

第6回中丹管内二級河川流域治水協議会の開催結果

■開催日時：令和5年11月30日（木） 13：30～14：30

■開催方法：Web会議<zoom>

■参加者：8名（別表参照）

結 果

■野原川、瀬崎川、大丹生川水系の流域治水プロジェクトを策定した。

■策定済の伊佐津川、高野川、河辺川、朝来川、志楽川、祖母谷川、与保呂川、福井川水系の流域治水プロジェクトのフォローアップを実施した。

主な発言内容

【開会挨拶（京都府建設交通部長）】

- ・「国土強靱化3か年緊急対策」や「5か年加速化対策」を活用し、流下能力の向上等のハード対策を実施してきた。その結果、今年8月の台風第7号において、被害が軽減されたところがある一方で、対策をすべきところは未だ多くある状況。
- ・「国土強靱化5か年加速化対策」の補正予算が4年目を迎え、本年度で83%が措置済となり、来年度及び再来年以降の予算を確保するために、台風第7号時の効果や引き続き整備が必要であるという声を上げていくことが重要。
- ・一方で、近年の激甚化する雨に対しては、ハード対策だけで対応することは事実上不可能であるため、生命を守ることを優先し、ソフト対策を重点的に実施していくことが大切。
- ・流域治水プロジェクトは、ハード・ソフト対策に関して計画を定め、効率的に取り組みを進めていくためのものであり、本協議会が早期の治水安全度の向上に繋がることを願う。

【意見交換】

（舞鶴市）

- ・台風第7号により、土石流や流木による橋梁の損傷など、甚大な被害が発生した。
- ・当市では、ハード、ソフト対策ともに取り組んでいるところであるが、近年の激甚化する災害から、ソフト対策の重要性が一段と増していると感じている。被害軽減の第一歩である避難について、短時間で経験値を超える被害が発生していることから、いかに早く避難してもらうかが鍵になるため、ソフト対策の充実を図って参りたい。
- ・一方で、被害軽減に向けたハード整備についても、西市街地の高野川流域では京都府との事業間連携事業、また東市街地でも浸水対策の取り組みを進めているところであり、流域治水プロジェクトを通して、更なる治水対策を進めて参りたい。

（綾部市）

- ・河川管理者が行う治水対策に加え、流域関係者を含めた流域治水という考え方は効果的であると考えている。

- ・当市では、伊佐津川流域での取り組みを引き続き推進するとともに、他機関の対策事例を参考に、新たな取り組みについても検討して参りたい。
- ・京都府に対しては、引き続き河川管理者としての対策の実施と、流域関係者が実施する様々な取り組みに対し、支援をお願いしたい。

〈京都府中丹広域振興局 地域連携・振興部〉

- ・当部では、福知山市、舞鶴市、綾部市と協力し、避難行動タイムラインの作成を進めている。
- ・水害等避難行動タイムラインは作ることで目的ではなく、作成の過程の中で、避難のタイミングや避難場所について地域全体で確認し、いざという時は避難するという気運が高まることが重要と考えている。
- ・逃げ遅れて被災したということがなくなるよう、引き続きタイムライン作成の推進について、福知山市、舞鶴市、綾部市と協力して参りたい。

〈京都府中丹広域振興局 農林商工部〉

- ・台風第7号の豪雨災害では、治山ダムが効果を発揮した一方で、山間部の溪流からの土砂や流木の流出による被害も発生したことから、改めて流域の最上流に当たる森林の維持管理の大切さを再認識したところ。
- ・当部では、引き続き、森林の整備保全や治山ダムの整備をはじめ、ため池、農業用水路等のハード対策を進めるとともに、ハザードマップやため池点検、治山ダムの見学会などのソフト対策も合わせて、関係機関と連携し地域で一体となった流域治水に取り組んで参りたい。

〈京都府中丹広域振興局 建設部〉

- ・河川、砂防の管理者として、ハード整備を担っているところであり、着実に整備を進めていくことが責務であると考えている。
- ・国土強靱化予算を活用して浚渫なども計画的に進めてきたところであり、今回の台風第7号では一定効果を発揮した事例もある一方で、まだまだハード整備が足りないという認識をしているところ。引き続き、確実な予算の確保に努め、事業に取り組んで参りたい。
- ・今回の台風被害では、他の意見でもあったように、山間部からの土砂や流木が河川に流出し、被害が拡大したところもある。森林整備は、保水効果のみならず流木の発生源対策にも資することとなるため、改めて流域全体での治水対策の必要性を痛感したところであり、各機関の皆様におかれては、プロジェクトの推進をよろしくお願いしたい。

〈京都府水産事務所〉

- ・引き続き舞鶴漁港等の浚渫を進めて参りたい。
- ・最下流部での浚渫がどの程度治水に対して効果があるか、また漁港整備の一環として治水に貢献できる取り組み事例があれば、教えていただきたい。
- ・このような場での情報共有はありがたく思う。土砂の流出抑制対策は泊地の埋塞を防ぐことにもつながることから、取り組みを進めていただければありがたい。

〈国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 近畿北陸整備局〉

- ・当局では、流木災害防止の観点から、間伐を行う際に販売可能なものについては積極的に搬出して販売することで、有効利用を図っている。
- ・森林の持つ公益的機能をより一層発揮させるため、新植する際は、針広混交林造成や複数の樹冠層を有する育成複層林等の造成を進める等、流域治水に貢献できるよう、今後も計画的な森林整備を進めて参りたい。

〈京都府建設交通部〉

- ・ハード整備のみでは危険を除去しきれないという前提に立ち、予め避難について決めておくことは最優先の一手であり、タイムラインの作成は非常に重要である。
- ・府建設交通部では、現在、水位予測システムを試験運用しており、タイムラインの作成に活用できるように精度を高めているところ。
- ・財政制度審議会での議論において、治水安全度が高いところの人口が減り、低いところの人口が増えていると指摘されている。
- ・流域治水の取り組みはまちづくりによる要素も大きく、住んでいる土地の使い方を考えることで、治水安全度を上げていくことも必要な視点である。

(別表)

機関名	職名	氏名	備考
舞鶴市	市長	鴨田 秋津	(代理)建設部長：白木 治彦
綾部市	市長	山崎 善也	(代理)建設課長：仲井 渉
京都府 建設交通部	部長	濱田 禎	協議会会長
京都府 中丹広域振興局 地域連携・振興部	部長	井関 洋人	(代理)総務防災課係長：田中 隆弘
京都府 中丹広域振興局 農林商工部	部長	岡田 宏一	
京都府 中丹広域振興局 建設部	部長	細井 浩一	
京都府 港湾局	局長	苔口 聖史	(欠席)
京都府 水産事務所	所長	粟屋 克彦	
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 近畿北陸整備局	局長	松林 順一	